

# トマト

夏の日差しに負けないぐらいの赤々としたその実は、リコピンによるもの。リコピンは強力な抗酸化力により、生活習慣病や美肌に効果があるといわれています。

## 3月の農作業

**作型** 連作障害が出やすいので、トマト、ナス、ピーマンの跡地には3～4年作らない。肥料は少しずつ、回数を多くする。

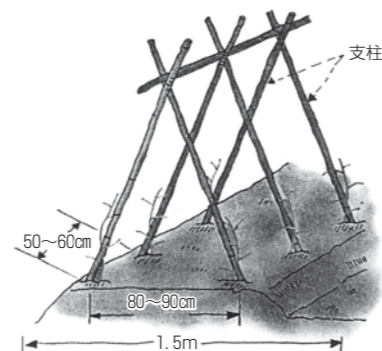
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△		■	■	■	■	■			桃太郎、南光2号、レッドオーレ

○：種まき △：植え付け ■：収穫

### 畑の準備・定植

<b>土づくり a当たり</b>	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
<b>元肥 a当たり</b>	
油粕	30kg
畝立時施用	

- ・2条植え：畝幅1.5m
- ・株間50～60cm
- ・条間80～90cm
- ・第1花房の花が開いた苗を植える。
- ・花房が通路側に向くように植える。



### 整枝・摘果

- ・わき芽は小さいうちにかきとり、主枝1本仕立てとする。
- ・主枝の摘芯は支柱の高さで、最終果房の上に葉を2枚残して止める。
- ・1つの花房にたくさん着果したときは、形の良いものを4～5果を残し、後は取り除く。



### 追肥・敷きわら

- ・第1花房の実がピンポン玉程度になった頃から20日ごとに追肥する。(3回くりかえす。)(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料3kg/a、または油粕8kg/a)
- ・敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。

### 防除

病虫害	耕種防除	薬剤防除
疫病	雨よけ栽培をする 窒素の多施用を避ける	ジマンダイセン水和剤(ミニトマト使用不可) 800倍 前日まで 2回以内
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る	アドマイヤー1粒剤 1g/株 定植時植穴土壌混和 1回

※トマトとミニトマトは農業によって登録の有無や散布量が違いますので、必ず農業のラベルを確認して散布しましょう。

### 収穫

- ・すぐに食べる場合は真っ赤に完熟したものを収穫する。

裏面はナスを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.275 平成26年3月11日発行

# ナス

夏の紫野菜として定番のナス。そのナスの皮には、ナスニンというポリフェノールの一種が含まれており、抗酸化作用や眼精疲労に効果があります。

## 3月の農作業

**作型** 連作障害が発生しやすいので、ナス、トマト、ピーマン等ナス科植物の跡地には3～4年作付しない。接ぎ木苗が望ましい。(土壌伝染病の病気を回避できる。)更新剪定により10月下旬ごろまで収穫できる。水ナス、米ナスは晩霜の恐れがなくなってから、植え付ける。普通ナスより多肥にする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△		■	■	■	■	■	■	■	兵庫長茄子、黒陽、千両二号、庄屋大長

○：種まき △：植え付け ■：収穫

### 畑の準備・定植

<b>土づくり a当たり</b>	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
<b>元肥 a当たり</b>	
醜酢鶏糞	50kg
野菜専用肥料	10kg
畝立時施用	

- ・1条植え：畝幅1.5m
- ・株間50～60cm
- ・本葉5～6枚の苗を植えた所がやや高めになるよう植え付ける。
- ・深植えは禁物。



風に振り回されないように支柱を立て、枝を固定する。

### 整枝・摘果

- ・主枝と第1果房付近の側枝3本を伸ばし、4本仕立てとする。
- ・側枝は第1果房の上に葉1枚残して、摘芯する。
- ・収穫後は、切り戻し剪定をする。

■更新剪定 7月下旬に主枝と側枝の茎部から2～3芽残して切り取り、追肥を行う。(野菜専用肥料5～7kg) 収穫がとだえないように、半分ずつ切ると良い。約30日後、新枝から収穫できる。



### 追肥・敷きわら

- ・収穫が始まった頃から20日ごとに追肥する。(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a)
- ・敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。

### 防除

病虫害	耕種防除	薬剤防除
テントウムシダマシ類		スミチオン乳剤 1,000～2,000倍 3日前まで 5回 モスピラン水溶剤(毒劇物により印鑑必要) 4,000倍 収穫前日まで 3回
チャノホコリダニ ハダニ類	周辺雑草を防除する	ピラニカEW(毒劇物により印鑑必要) 2000倍(2,000～3,000倍) 収穫前日まで 1回
うどんこ病	過乾を避け、換気をよくする	ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 4回

### 収穫

- ・実が大きくなったものから順次収穫する。(若どりを行い草勢低下を防ぐと、収穫期間が長くなる。)

裏面はトマトを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.275 平成26年3月11日発行